

## 第65回日本学生科学賞 最終審査進出研究作品概要

JB019CE	中学	生物	茨城県
学校名	つくば市立春日学園義務教育学校		
研究作品タイトル	在来種タンポポの群生理由を探る つくば市中心の公園でなぜ在来種タンポポが群生できているのか		
研究者氏名 (共同の場合はグループ)	平野 大雅、渡部 司、小川 心彩、植村 丈、門脇 隼雄、山下 優希、櫻井 正宗、市原 楓花、伊藤 晴慈、大庭 有乃、本郷 碩士、飯嶋 大地、敦賀 景杜、岡野 朱李、田中 慶信、伊藤 啓慈、天野 稜太、竹中 里緒		
指導教諭氏名	大村 千博		

### 【動機】

春日地区における在来種カントウタンポポ、雑種タンポポ等の分布地図を一昨年度から継続して、作成している。その調査・研究を通して、本学園隣にあるかつらぎ公園の中央芝生部分になぜか**在来種カントウタンポポ**が群生していることが分かった。その原因を明らかにすることを目的とした。

### 【方法】

かつらぎ公園のタンポポの分布とそれぞれの場所の水分量、pH等の土壌の性質や温度、照度などを調査し、タンポポの生育場所と環境要因との関連性を明らかにすることを目指した。

### 【結果】

在来種カントウタンポポは土壌の水分量が多く、pHの値が小さい土壌に群生していた。このことから、在来種のカントウタンポポは、多めの水分を含み、酸性に近い土壌に群生していると分かった。さらに、観察を通して、かつらぎ公園はまわりが木々に覆われ、公園外の環境と異なっており、昆虫が大変多いことが分かった。

### 【まとめ】

かつらぎ公園はまわりから雑種タンポポが侵入しにくい、在来種カントウタンポポの生育に環境が適していて、繁殖能力が雑種よりも高い可能性がある。また、既存林の土壌をできるだけ残してつくったと資料にあることから、公園の中心部はおそらく既存林の土壌の割合が多く、在来種の根などが残っていたことにより、現在もその子孫が引き継がれている可能性があると思われる。

### 【展望】

カントウタンポポとセイヨウタンポポ、外見が雑種に近いセイヨウタンポポやカントウタンポポ

の生育場所を継続して、調査・観察を行い、それぞれのタンポポの勢力の分布のデータを今後も取り続けたい。